**■科目：基礎看護学概論　第１回**

■**テーマ**

看護とは何かを理解する

**■目的**

看護の概念や目的、対象について基礎的理解を深め、他職種との違いや看護職の役割について明確にする。

**■目標**

* 「看護」という言葉の語源や歴史的背景を説明できる。
* 医療職・介護職・看護職の役割の違いを理解し、具体的に説明できる。
* 看護の対象と目的について正しく理解し、他者に説明できる。
* 看護職が多様な場で果たす役割について事例を交えて考察できる。

**■授業構成（90分）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **時間配分** | **内容** | **指導方法** |
| 10分 | 看護の定義や看護職の多様な活躍場面について簡単に紹介し、学生に「看護とは何か」と問いかけて考えさせる。授業の目的と構成を説明する。 | 講義・全体への問いかけ |
| 15分 | 「看護」という語の語源（英語：nursing、ラテン語：nutrire）や、日本における看護の始まり、看護婦と看護師の呼称の変化について解説する。 | 講義 |
| 20分 | 医師・介護福祉士・看護師の役割の違いについて具体的に整理し、専門性や連携の必要性について解説する。現場の連携事例（病院・在宅など）も紹介する。 | 講義・板書 |
| 15分 | 看護の対象が「個人」だけでなく「家族・集団・地域」にも広がることを説明し、各対象における看護の関わり方の例を示す（例：家族看護、公衆衛生看護など）。 | 講義・スライド |
| 15分 | 看護の目的として「健康の保持・増進、回復、安楽な死」の4点を示し、それぞれの具体的な看護行為や場面（予防、治療、ターミナルケア）を紹介する。 | 講義・簡単なペアワーク |
| 10分 | 病院・地域・学校などにおける看護職の実際の役割を写真や統計、事例で紹介し、それぞれの場の特徴を考察する。 | 講義・実例提示 |
| 5分 | 今日の学びをふり返り、「自分にとって看護とは何か」を一言で書かせる活動を行い、何人かに共有させてまとめとする。 | 全体での共有・講義 |

**第1回：看護とは何か**

**1．はじめに 〜「看護とは何か」を考える〜**

**（１）なぜ「看護とは何か」を考えるのか**

* 「看護」という言葉は身近にあるが、正確に説明するのは難しい。
* 看護の定義は1つではなく、時代や社会の中で変化してきた。
* 看護職になるうえで、「自分にとって看護とは何か」を考えることが重要である。
* この問いを繰り返し考え続けることが、看護職としての専門性を育てていく土台となる。

**（２）この授業で学ぶこと**

この講義では、以下の点について理解を深める：

* 「看護」という言葉の**語源**や、歴史的な背景
* 看護職の**役割**と、医師・介護職との違い
* 看護の対象となる**人々や集団**の範囲
* 看護の持つ**目的**（健康の保持・増進・回復・安楽な死）

**（３）目指すゴール**

* 看護の全体像を理解し、これからの学びの出発点とする。
* 看護の仕事が「病気の人を支える」ことだけでない広がりをもっていることに気づく。

**2．「看護」という言葉の語源と歴史**

**（１）看護という言葉の語源**

* 英語の「**nurse**」が語源
* 「nurse」はラテン語の「**nutrire（養う・育てる）**」に由来
* 「nutrire」は、赤ちゃんや子どもを育てる母親のイメージが原型
* つまり、看護の起源は「**世話する・育てる・支える**」という行為にある

**（２）日本における看護の呼び名の変遷**

|  |  |
| --- | --- |
| **時代** | **呼び名・特徴** |
| 江戸〜明治初期 | 特定の呼称はなく、「看病」などと表現されていた |
| 明治時代 | 西洋医学導入とともに「**看病婦**」「**看護婦**」という言葉が使用されるようになる |
| 昭和時代 | 看護教育の制度化が進み、職業としての認識が高まる |
| 1990年代〜 | 男女共通の職業名として「**看護師**」に名称が統一される（1992年、保助看法改正） |

**（３）看護の専門職化の歴史**

* 初期の看護は「病人の世話」「医師の補助的業務」が中心であった
* 20世紀に入り、教育課程や免許制度の整備により、**専門的な知識と技術を有する職業**としての地位を確立
* 現代の看護は、科学的根拠に基づいた判断力と、高度な実践力が求められる
* 看護は単なる「手伝い」ではなく、**人々の生活・命に寄り添う自律した専門職**へと発展してきた

**3．看護職と他職種との違い**

**（１）看護職の立ち位置と役割**

* 看護職は、医療現場や福祉の場で**他職種と協働**しながら、人々の健康と生活を支援する専門職である。
* 「医療」と「生活」の両方に関わることが、看護職の大きな特徴である。
* 治療の場面だけでなく、日常生活や精神的側面にも目を向けて援助する。

**（２）主な他職種との比較**

|  |  |
| --- | --- |
| **職種** | **主な役割** |
| **医師** | 診断・治療・投薬など、**病気の医学的管理の中心的役割**を担う |
| **介護福祉士** | 食事・排泄・入浴などの**日常生活の介助**や、**福祉制度を活用した生活支援**を担う |
| **看護師** | 医学的知識を活用しながら、**治療の補助と生活支援**を行い、患者の全体像に基づいたケアを提供する |

**（３）看護職に求められる専門性**

* 看護師は、**医学的視点と生活者視点の両方**を併せ持つことが求められる
* **症状の観察や処置**だけでなく、**生活の継続・回復に向けた支援**を行う
* **対象の身体・心理・社会・スピリチュアル面**を含めた全人的理解が必要
* 患者と家族の価値観を尊重しつつ、**継続的かつ協働的にケア**を提供する

**（４）看護師の特徴的な立場**

* 看護職は「医療の専門家」であると同時に、「生活のパートナー」でもある
* 医師が診療に集中する一方で、看護師は**患者のそばに長く関わり、生活と感情の変化を察知**できる存在
* 医療チームの中で、患者と他職種を「つなぐ」役割も担っている

**4．看護の対象 〜「個人」から「地域」まで〜**

**（１）看護の対象は誰か**

* 看護の対象は、単に「病気の人」だけではない
* 健康な人を含む、「生活するすべての人」が対象となる
* 対象は次のように多層的である：

|  |  |
| --- | --- |
| **層** | **説明** |
| **個人** | 病気や障害の有無にかかわらず、一人ひとりの身体・心・生活に焦点をあてた援助を行う |
| **家族** | 家族の役割・関係・経済・感情に配慮しながら、患者と家族を一体として支援する |
| **集団** | 学校や職場など、特定の目的や属性を持つ人々の健康課題に対応する（例：学校保健） |
| **地域** | 地域に暮らすすべての人々を対象に、健康づくりや疾病予防、災害時の支援などを行う |

**（２）実際の場面にみる看護の対象の広がり**

* **病院での看護**：
  + 入院患者だけでなく、その家族の不安・負担・生活の変化にも配慮する
  + 退院後の生活や地域連携を視野に入れた支援が必要
* **学校での看護（養護教諭）**：
  + 子どもの身体的・精神的健康を見守る
  + 保護者や教員との連携を通じ、学校全体の健康環境を整える役割
* **地域での看護（保健師）**：
  + 地域住民の健康課題（生活習慣病、子育て、孤立、高齢化など）に対して予防的に働きかける
  + 行政や地域資源と協働しながら、継続的な支援を行う

**（３）看護に求められる視点**

* 看護は「生活者の視点」で捉えることが基本である
* 個人の背景（年齢・性別・家族構成・文化・社会環境など）を踏まえた**個別的な理解**が必要
* その人を「部分」ではなく「全体」として見る**全人的アプローチ**が求められる
* 多様な対象に対応するために、柔軟で幅広い視野が必要である

**5．看護の目的 〜生を支える4つの柱〜**

看護の目的は、単に「病気を治す」ための補助ではなく、**人が人として自分らしく生きることを支える行為**である。以下の4つの目的は、看護の実践を支える基本的な視点である。

**（１）健康の保持**

病気やけがを未然に防ぐことを目指す。看護師は、予防的支援や健康教育を通じて、人々の生活習慣や行動の改善を促す。

* **具体例：**
  + 乳幼児への予防接種のスケジュール管理
  + 高血圧や糖尿病予防のための食生活・運動指導
  + 感染症予防のための手洗いや咳エチケットの指導

**（２）健康の増進**

すでに健康である人が、よりよい生活の質（QOL）を目指して自分の健康を高めていけるよう支援する。個人の価値観やライフスタイルを尊重したアプローチが求められる。

* **具体例：**
  + 職場での健康づくりプログラムへの参加支援
  + 高齢者が運動習慣を継続できるような地域活動の推進
  + 若年層へのメンタルヘルス啓発

**（３）健康の回復**

病気やけがをした人が元の健康状態に戻ること、あるいは最適な状態で日常生活を送れるように支援する。

* **具体例：**
  + 入院患者への清潔ケアや服薬管理
  + 退院指導を通じた在宅療養の準備
  + リハビリテーションの動機づけや支援

**（４）安楽な死の支援**

回復が望めない場合でも、**苦痛を軽減し、安心して最期を迎えることができるように支援する**。本人の尊厳を重視した看護が重要となる。

* **具体例：**
  + 緩和ケア病棟での身体的・精神的苦痛の軽減
  + 家族へのグリーフケアや意思決定支援
  + 本人の希望に基づく「看取りの場」の調整（在宅・病院など）

**（５）看護の本質としての目的**

これら4つの目的は、いずれも「人間の尊厳」に根ざしている。  
看護とは、単に治療の補助をするのではなく、**人の生き方に寄り添い、人生のあらゆる段階で支援する行為**である。

**6．看護職の役割と活躍の場 〜多様なフィールドで支える専門職〜**

看護職は、医療の現場に限らず、さまざまな生活の場において人々の健康と生活を支えている。看護の専門性は、治療を支える力と、生活を支える力の両方を兼ね備えており、**「その人らしい生活」を実現するためのキーパーソン**である。

**（１）病院・診療所**

**主に「治療の場」で活躍する看護師の役割**

* 急性期・慢性期・終末期のケアを担う
* 医師の診療補助、投薬管理、バイタルサインの測定
* 手術前後の身体的・心理的サポート
* 入退院支援や療養生活の調整

**具体例：**

* 手術直後の全身状態観察と疼痛コントロール
* 糖尿病患者に対するインスリン自己注射の指導
* 心疾患患者の退院後の生活指導（食事・運動）

**（２）地域・在宅**

**生活の場に近いところで看護を提供**

* 訪問看護ステーション、保健所、地域包括支援センターなどで勤務
* 病院から在宅への移行支援、終末期の在宅看取り支援
* 地域住民への健康相談や保健指導

**具体例：**

* 自宅で療養するがん患者への疼痛コントロールと家族支援
* 認知症高齢者の生活環境の整備支援
* 子育て家庭への乳幼児訪問（予防接種、育児相談）

**（３）学校・企業・社会福祉施設**

**特定の人々の健康維持・向上をサポートする役割**

* 養護教諭、産業看護職、福祉施設看護師などとして活動
* 健康教育、感染症対策、ストレスマネジメントなどを実施

**具体例：**

* 学校における児童の健康観察やケガへの応急処置
* 企業でのメンタルヘルスケア（過労・ストレス対策）
* 障害者施設での生活支援や医療的ケア

**（４）共通して求められる視点**

いずれの場においても、看護職には以下のような視点が求められる。

* **対象者の全体を捉える力（心身・社会・環境の視点）**
* **その人らしい生活・人生を支えるという倫理的視点**
* **チーム医療・多職種連携における調整・橋渡しの役割**

看護職は「どこで働くか」ではなく、「誰に、どのように寄り添うか」によって、その専門性が発揮される。つまり、**看護とは“生活の中に生きる実践”であり、現場の枠を越えて人を支える専門職**なのである。

**7．おわりに**

本講義では、看護の基本的な概念について学んだ。看護とは何かという問いは、今後の学びや実習の中で何度も立ち返るテーマである。次回はナイチンゲールの思想を通して、現代看護の基盤について理解を深めていく予定である。

**第1回「看護とは何か」復習ワーク（全10問）**

**【1】語句の意味を確認しよう（語句選択問題）**

1．「nursing」の語源とされるラテン語はどれか。  
　ア：cura　イ：nutrire　ウ：medicina　エ：salus

2．日本で「看護」という言葉が一般化されたのは、次のうちどの時代か。  
　ア：江戸時代　イ：明治時代　ウ：昭和時代　エ：平成時代

**【2】正誤を判断しよう（○×問題）**

3．看護師は、医学的な治療だけを専門に行う職種である。 （　）

4．看護の対象には、個人のほかに家族や地域も含まれる。 （　）

5．終末期ケアや看取りも、看護の目的のひとつである。 （　）

**【3】理解度チェック（選択式問題）**

6．次のうち、看護師の職務に最も適している記述はどれか。  
　ア：診断を行い、治療方針を決定する  
　イ：日常生活の介助や福祉的支援を行う  
　ウ：医学的知識と生活支援の両面からケアを行う  
　エ：リハビリテーションの訓練を提供する

7．次のうち、「健康の増進」にあたる看護の活動はどれか。  
　ア：手術前後の看護　イ：生活習慣病予防の健康教育  
　ウ：予防接種の説明　エ：終末期患者の看取り

**【4】記述してみよう（短答記述）**

8．「看護の目的」を4つ挙げ、それぞれ簡単に説明しなさい。

**【5】整理してみよう（分類問題）**

9．次の看護師の活動を、活躍する場ごとに分類しなさい。  
　A. 終末期患者の在宅ケア  
　B. 保健室での生徒の健康相談  
　C. 病棟でのバイタルサイン測定  
　D. 地域住民への健康指導

|  |  |
| --- | --- |
| **活躍の場** | **活動名** |
| 病院 |  |
| 地域 |  |
| 学校 |  |

**【6】自分の考えをまとめよう（記述問題）**

10．あなたは「看護とは何か」と問われたとき、どう答えますか？  
講義で学んだ内容をふまえて、自分の言葉で100字程度で説明しなさい。

**解答**

**【1】語句の意味を確認しよう**

1．イ：nutrire  
2．イ：明治時代

**【2】正誤を判断しよう**

3．×（治療のみならず、生活全体を支援するのが看護）  
4．○  
5．○

**【3】理解度チェック**

6．ウ：医学的知識と生活支援の両面からケアを行う  
7．イ：生活習慣病予防の健康教育

**【4】記述してみよう（模範解答）**

8．

* 健康の保持：病気の予防を支援する
* 健康の増進：より良い生活を目指して支援する
* 健康の回復：病気やけがからの回復を支援する
* 安楽な死の支援：終末期に穏やかに過ごせるよう支援する

**【5】整理してみよう（分類）**

|  |  |
| --- | --- |
| **活躍の場** | **活動名** |
| 病院 | C. 病棟でのバイタルサイン測定 |
| 地域 | A. 終末期患者の在宅ケア、D. 地域住民への健康指導 |
| 学校 | B. 保健室での生徒の健康相談 |

**【6】自分の考えをまとめよう（模範記述例）**

10．  
看護とは、病気や障害を持つ人に寄り添い、その人らしい生活を支える行為である。医療的な支援だけでなく、心のケアや生活全体への配慮を含めた、包括的な専門職の働きである。（98字）

**事例演習：「看護とは何か」＜全７問＞**

Aさん（78歳・女性）は、脳梗塞の後遺症で右片麻痺があり、退院後は自宅で一人暮らしをしている。訪問看護ステーションの看護師Bさんが週2回訪問している。Aさんは「人に迷惑をかけたくない」「できることは自分でやりたい」と話している。最近は、右手の動きが制限され、調理や入浴に支障が出ている。近隣との交流も少なく、「昼間は誰とも話さない日が多く、気持ちが沈む」と語った。

**【設問】**

1．Aさんに対する看護の対象を、授業で学んだ4つの視点（個人・家族・集団・地域）で具体的に整理しなさい。

2．Aさんの状況において、看護の目的（健康の保持・増進・回復・安楽な死）に該当する内容を1つずつ挙げ、それぞれに対する看護師の具体的支援を述べなさい。

3．この事例から考える「看護職ならではの役割」を2つ挙げ、医師や介護職との違いを説明しなさい。

4．Aさんが「できることは自分でしたい」と言っている背景にある看護の価値観について、看護の基本的視点から説明しなさい。

5．Aさんに対する「安楽な生活」の支援として、看護師が行える具体的な援助を2つ挙げなさい。

6．Aさんに関わる他職種（2名）を挙げ、それぞれとの連携の具体的内容を説明しなさい。

7．この事例を通して、あなたが考える「看護とは何か」を100～120字程度でまとめなさい。

**【解答例】**

**設問1 解答：**

* **個人**：Aさん本人（右片麻痺、生活への不安、孤独感）
* **家族**：近隣に住む娘（支援の可能性あり）
* **集団**：地域の高齢者サロン、デイサービスの利用者
* **地域**：訪問看護ステーション、地域包括支援センター、保健所

**設問2 解答：**

* **健康の保持**：再発防止のための血圧管理や服薬支援
* **健康の増進**：生活の質向上のための入浴・調理環境の調整
* **健康の回復**：リハビリテーションの継続、日常生活動作の訓練
* **安楽な死**：現時点では該当しないが、将来を見据えて意思確認やACPの支援が考えられる

**設問3 解答：**

1. 医療と生活の両面から支援できること（例：血圧管理と入浴環境の調整）
2. 感情や社会的背景に配慮し、孤独や不安への精神的支援を行うこと  
   （医師は診断・治療が主、介護職は生活援助が中心であり、看護職はその橋渡しの役割を担う）

**設問4 解答：**  
Aさんの「できることは自分でしたい」という意志は、看護における「自律性の尊重」に基づく。看護職は、対象者の意思を尊重しつつ、生活機能を補う支援を行い、その人らしい生き方を支える役割を担う。

**設問5 解答：**

1. シャワーチェアや片手で使える調理器具などの福祉用具を紹介する
2. 地域のサロンやデイサービスの紹介により、孤独感を軽減する支援を行う

**設問6 解答：**

* **介護支援専門員（ケアマネジャー）**：サービス利用計画の作成、福祉サービスの調整
* **作業療法士**：片麻痺に対応した生活動作の指導や練習の実施

**設問7 解答：**  
看護とは、対象者の身体や心の状態だけでなく、その人の生活や価値観に寄り添い、安心して暮らせるように支える行為である。医療と生活のつなぎ手としての専門性が求められる。（117字）